

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成20年10月16日(2008.10.16)

【公開番号】特開2006-326343(P2006-326343A)

【公開日】平成18年12月7日(2006.12.7)

【年通号数】公開・登録公報2006-048

【出願番号】特願2006-249151(P2006-249151)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 E

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月2日(2008.9.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

開口部を開設した前面枠と、該前面枠の開口部を前面から塞ぐようにして前面枠に取り付けられた前面開閉部材と、前面開閉部材の一側上下を前面枠に対して開閉可能に取り付ける第 1 蝶番機構及び第 2 蝶番機構とを備えた遊技機において、

上記第 1 蝶番機構は、前面開閉部材の一側上下の一方に設けた固定軸受孔と、前面枠側に設けられて上記固定軸受孔に挿入する固定軸部材と、から構成され、

上記第 2 蝶番機構は、前面開閉部材の一側上下の他方に上下動可能に設けられて前面開閉部材と共に回りする可動軸部材と、前面枠側に設けられて上記可動軸部材の先端が挿入される可動側軸受孔と、可動軸部材の先端が可動側軸受孔に挿入する方向に付勢する付勢部材とから構成され、

上記可動軸部材を可動軸用支持孔へ挿入して支持する軸支持部材と、可動軸部材が可動軸用支持孔から抜けることを防止可能とするストッパー部材を備え、

前面開閉部材が閉じた状態では、可動軸部材が可動側軸受孔から抜ける方向に移動する際に可動軸部材の横突出部に当接して可動軸部材の抜けを阻止し、前面開閉部材が開いた状態では、上記横突出部が前面開閉部材と共に回りして可動軸部材の抜け方向への移動を許容する可動軸部材用可動範囲規制部材を前面枠側から突出した状態で設け、

前記可動軸部材は、前面開閉部材が開いた状態ではストッパー部材により可動範囲を規制され、前面開閉部材が閉じた状態では可動軸部材用可動範囲規制部材により可動範囲を規制されていることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

可動軸部材を支持する軸支持部材を前面開閉部材の裏側に取り付け、該前面開閉部材の背面と軸支持部材との間に空部を形成し、該空部内に横突出部を収容し、前面開閉部材の開閉動作により上記前面開閉部材の背面と軸支持部材のいずれかが当接して可動軸部材を前面開閉部材と共に回りさせるようにしたことを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【請求項 3】

前記軸支持部材は、可動軸部材の支持部分とは反対側に、クランク形状に屈曲した屈曲部を有し、

前記前面開閉部材が閉じた状態で、前面枠と前面開閉部材との重合部分への異物の進入

を防止する異物進入防止部材を前面枠側から突出した状態で設け、

前記異物進入防止部材は、可動軸部材用可動範囲規制部材よりも前面枠の開口部側に設けられ、且つ前記屈曲部と隣り合うように突設されることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は上記目的を達成するために提案されたもので、請求項 1 に記載のものは、開口部を開設した前面枠と、該前面枠の開口部を前面から塞ぐようにして前面枠に取り付けられた前面開閉部材と、前面開閉部材の一側上下を前面枠に対して開閉可能に取り付ける第 1 蝶番機構及び第 2 蝶番機構とを備えた遊技機において、

上記第 1 蝶番機構は、前面開閉部材の一側上下の一方に設けた固定軸受孔と、前面枠側に設けられて上記固定軸受孔に挿入する固定軸部材と、から構成され、

上記第 2 蝶番機構は、前面開閉部材の一側上下の他方に上下動可能に設けられて前面開閉部材と共に回りする可動軸部材と、前面枠側に設けられて上記可動軸部材の先端が挿入される可動側軸受孔と、可動軸部材の先端が可動側軸受孔に挿入する方向に付勢する付勢部材とから構成され、

上記可動軸部材を可動軸用支持孔へ挿入して支持する軸支持部材と、可動軸部材が可動軸用支持孔から抜けることを防止可能とするストッパー部材を備え、

前面開閉部材が閉じた状態では、可動軸部材が可動側軸受孔から抜ける方向に移動する際に可動軸部材の横突出部に当接して可動軸受部材の抜けを阻止し、前面開閉部材が開いた状態では、上記横突出部が前面開閉部材と共に回りして可動軸受部材の抜け方向への移動を許容する可動軸部材用可動範囲規制部材を前面枠側から突出した状態で設け、

前記可動軸部材は、前面開閉部材が開いた状態ではストッパー部材により可動範囲を規制され、前面開閉部材が閉じた状態では可動軸部材用可動範囲規制部材により可動範囲を規制されていることを特徴とする遊技機である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

請求項 2 に記載のものは、可動軸部材を支持する軸支持部材を前面開閉部材の裏側に取り付け、該前面開閉部材の背面と軸支持部材との間に空部を形成し、該空部内に横突出部を収容し、前面開閉部材の開閉動作により上記前面開閉部材の背面と軸支持部材のいずれかが当接して可動軸部材を前面開閉部材と共に回りさせるようにしたことを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機である。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 8 】

請求項 3 に記載のものは、前記軸支持部材は、可動軸部材の支持部分とは反対側に、クランク形状に屈曲した屈曲部を有し、

前記前面開閉部材が閉じた状態で、前面枠と前面開閉部材との重合部分への異物の進入を防止する異物進入防止部材を前面枠側から突出した状態で設け、

前記異物進入防止部材は、可動軸部材用可動範囲規制部材よりも前面枠の開口部側に設けられ、且つ前記屈曲部と隣り合うように突設されることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の遊技機である。

【 手続補正 6 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 0 9

【 補正方法 】 削除

【 補正の内容 】

【 手続補正 7 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 0

【 補正方法 】 削除

【 補正の内容 】

【 手続補正 8 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 2

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 1 2 】

また、可動軸部材が前記軸支持部材に設けられる可動軸用支持孔から抜けることを防止可能とするストッパー部材を備え、前記可動軸部材は、前面開閉部材が開いた状態ではストッパー部材により可動範囲を規制され、前面開閉部材が閉じた状態では可動軸部材用可動範囲規制部材により可動範囲を規制されるようにしたので、可動軸部材の抜けを防止できるばかりでなく、前面開閉部材が開いた状態でのみ必要な可動範囲内だけで可動軸部材を作動させることができる。

【 手続補正 9 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 3

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 1 3 】

請求項 2 の発明によれば、可動軸部材を支持する軸支持部材を前面開閉部材の裏側に取り付け、該前面開閉部材の背面と軸支持部材との間に空部を形成し、該空部内に横突出部を収容し、前面開閉部材の開閉動作により上記前面開閉部材の背面と軸支持部材のいずれかが当接して可動軸部材を前面開閉部材と共に回りさせるようにしたので、可動軸部材を前面開閉部材と共に回りさせるために別部材を新たに追加することなく構成することができ、製造が容易である。

【 手続補正 10 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 4

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 1 4 】

請求項 3 の発明によれば、前面開閉部材が閉じた状態で、前面枠と前面開閉部材との重合部分への異物の進入を防止する異物進入防止部材を前面枠側から突出した状態で設け、

異物挿入防止部材は、可動軸部材用可動範囲規制部材よりも前面枠の開口部側に設けるので、可動軸部材を不正行為者により操作されてしまいかねない位置に設けても、可動軸部材用可動範囲規制部材が可動軸部材の動作を止め、これにより前面開閉部材が取り外される不正行為を確実に防止することができ、また、異物進入防止部材があるので、この異物進入防止部材より内側へは不正行為者による不正行為を防止でき、したがって、前面枠と前面開閉部材との重合部分への異物の進入による不正行為を防止することができる。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

また、クランク形状に屈曲した軸支持部材の屈曲部と隣り合うように異物進入防止部材を突設するので、この異物進入防止部材は、屈曲部を利用して一段深い位置まで突設することができる。したがって、可動軸部材の横突出部を回避して異物進入防止部材を大きく形成することができ、これにより前面開閉部材全体を異物進入防止部材で防御することができ、不正行為を一層確実に防止できる。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】削除

【補正の内容】